

2024年度上半期報告 説明資料

「THE MUTUAL」～相互会社としての使命～	P1
経営の差別化	P2～4
2024年度上半期報告のポイント	P5
保険業績、保険料等収入、金融機関窓販の状況	P6～7

資産運用の状況(富国生命単体)	P8～9
基礎利益、自己資本の状況	P10
健全性の状況	P11
【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P12

富国生命保険相互会社

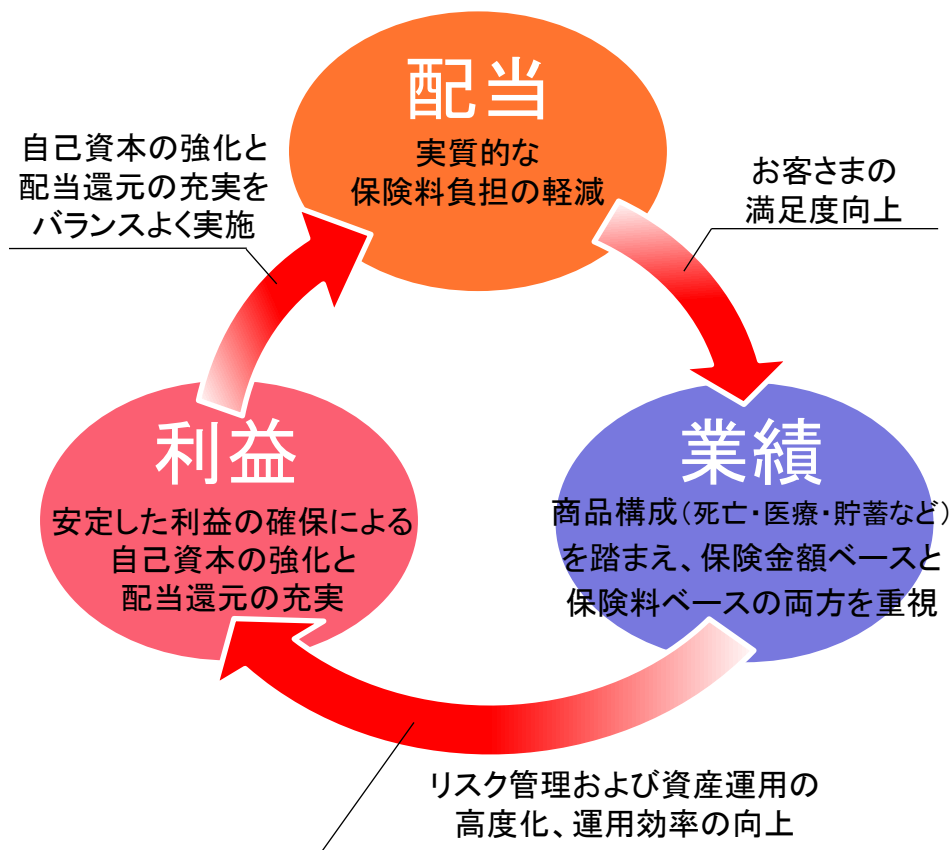
2024年11月22日



「THE MUTUAL」～相互会社としての使命～

- 安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ることが「相互会社としての使命」であり、これを実践
- 2023年11月に創業100周年を迎えたことを機に、次代の相互扶助である「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)を掲げ、共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織を目指すことを宣言

相互会社としての使命



THE MUTUAL宣言

THE MUTUAL宣言

1923年、富国生命は「ご契約者本位」という想いのもと、相互会社として創業しました。この想いは、創業以来変わらぬ経営理念である「ご契約者の利益擁護」、そして価値観である「お客さま基点」に引き継がれています。

当社は創業以来、相互会社形態を堅持する日本で唯一の生命保険会社です。それは、ご契約者が保険団体を構成しお互いに助け合う相互扶助が保険の精神であり、相互会社はこの相互扶助の精神から生まれたご契約者を中心とする組織だからです。

相互会社である当社は、お互いに助け合う人たちをつなぐ役割を担っています。わたしたちは人と人の間で、人と人の想いをつなぎ、その想いを守るために存在しています。人と人がつながるためには、共感が必要です。共感からは信頼が生まれ、信頼からは安心が生まれます。わたしたちはFace to Faceで安心をお届けします。

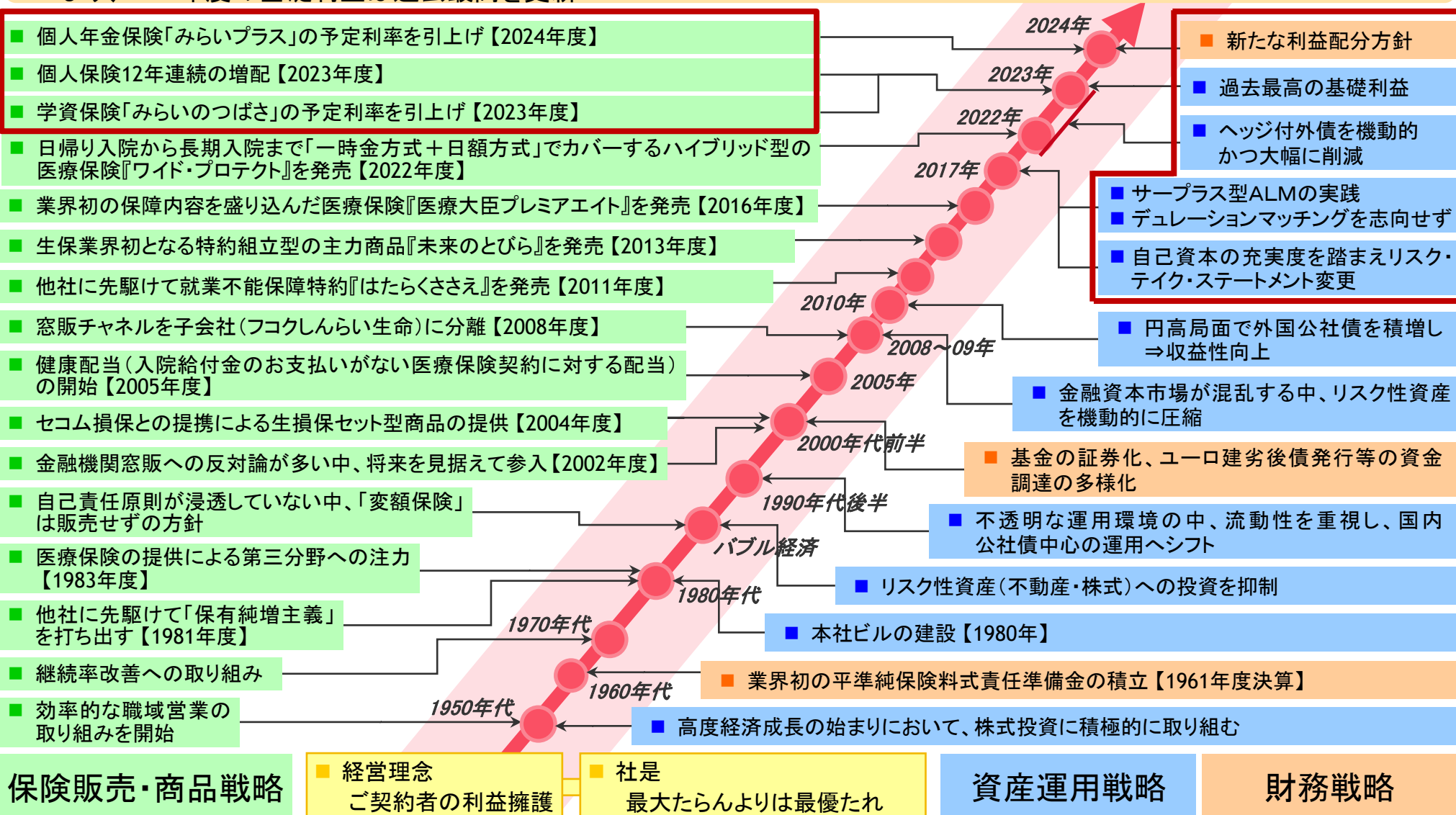
当社は、次代の相互扶助である「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)を掲げ、共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織を目指すことを宣言します。生命保険はお客さまとの一生涯にわたる、さらには世代を超える約束であり、終わりのない仕事です。相互扶助の精神のもと、お客さまにしっかりと寄り添い、未来永劫お客さまとの約束を守り続けます。

富国生命は、これからも「人と人の間に」存在し続けます。

2023年11月22日 富国生命保険相互会社

経営の差別化の歴史

- 当社は、「最大たらんよりは最優たれ」という社是のもと、健全性にこだわり自己資本を強化
特に2000年代後半の世界金融危機以降、経常利益による内部留保を第一義とした自己資本の積み増しを加速
- 自己資本の充実に伴い、2017年度にリスク・テイク・ステートメントを変更。強固な自己資本に裏付けされたリスク・テイクにより、2023年度の基礎利益は過去最高を更新

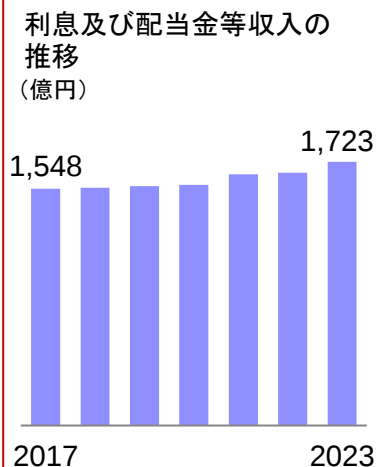


経営の差別化(2017年度以降)①

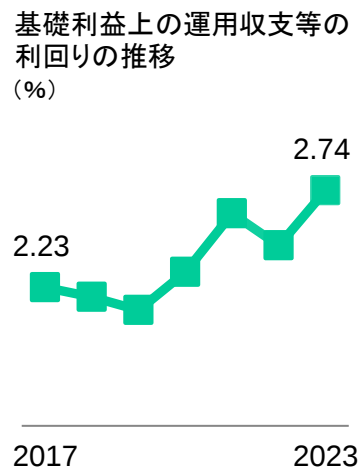
リスク・テイク・ステートメントの変更(2017年度)

- ◆ オンバランスの自己資本が、経済価値ベースのリスク量を上回ったこと等から、2017年度にリスク・テイク・ステートメントを変更
 - 自己資本の充実度状況とリスク・リターン効率をふまえ資産運用リスクを取りに行く

6年連続過去最高の配収入



業界最高水準の基礎利回り



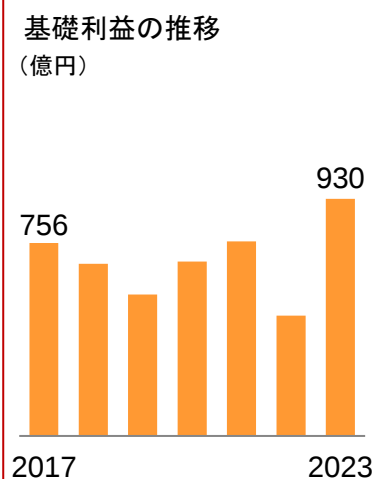
平準払貯蓄性商品の予定利率を引上げ

暮らしく、未来をかなえる みらいプラス 災害死亡給付金付 個人年金保険	2024年4月～
	0.65%→ 最大1.35%
フコク生命の学資保険 みらいのつばさ 学資保険	2023年4月～
	0.9%→ 1.15%

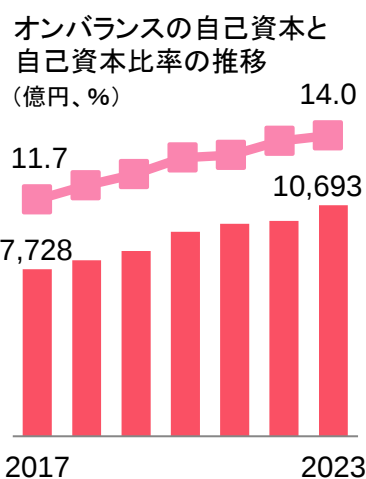
リスク・テイクの実践(2017年度～)

- ◆ サープラス型ALMの実践
 - 強固な自己資本を踏まえた適切なリスク・テイク
 - 超低金利環境下での超長期国債投資を抑制
 - デュレーション・マッチングを志向せず
- ◆ ヘッジ付外債の削減、オープン外債の積増し
- ◆ 内外の株式等の積増し

過去最高の基礎利益



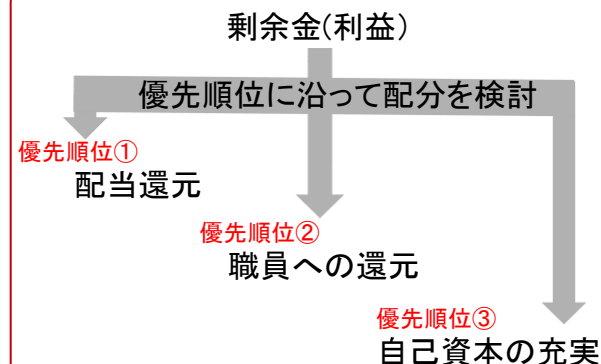
業界最高水準の自己資本比率



12年連続増配(個人保険分野)

- ✓ 学資保険、個人年金の予定利率引き上げ前に、ご加入のお客さまに対し調整配当を実施
- ✓ 金利上昇を踏まえた利差配当の増配

新たな利益配分方針



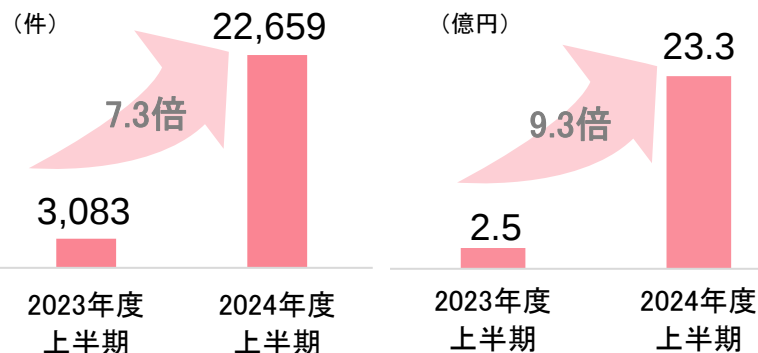
経営の差別化(2017年度以降)②

業界最高水準の
収益性と健全性

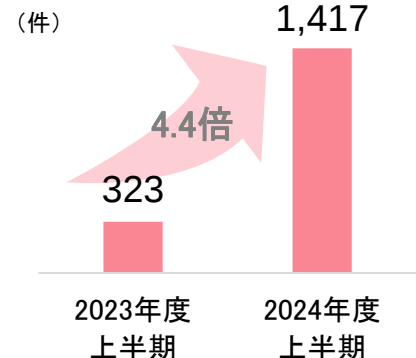
個人年金の
予定利率を引上げ

標準責任準備金の
積立

● 個人年金「みらいプラス」の販売実績 [販売件数] [新契約年換算保険料]

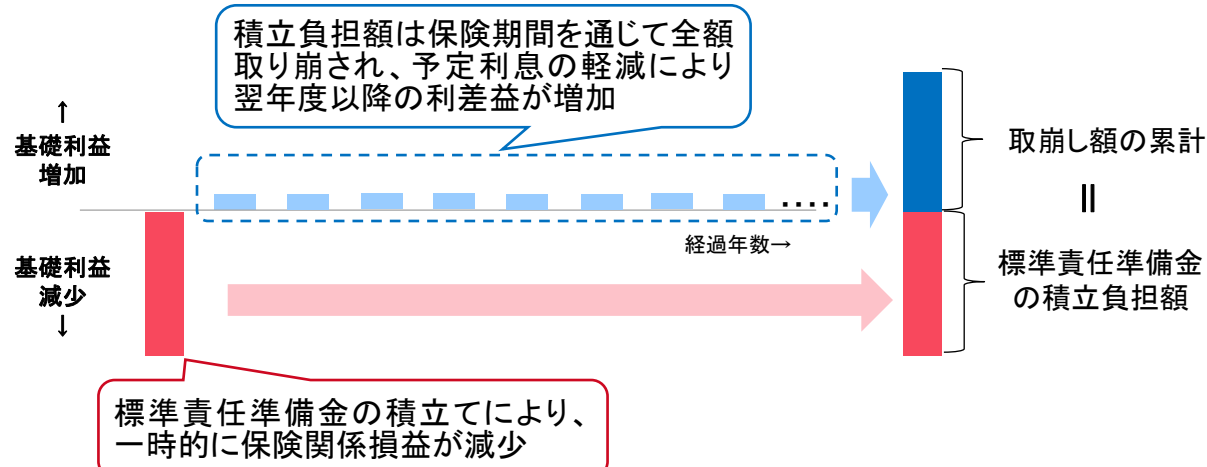


● クロスセル実績 [主力商品「未来のとびら」への クロスセル件数]



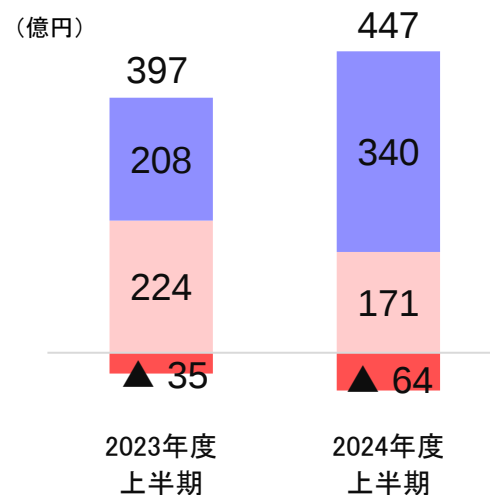
- 個人年金「みらいプラス」は、2024年4月より標準利率(0.25%)を上回る予定利率(1.15%、1.35%)を設定しているため、標準責任準備金の積立負担が生じる
- 標準責任準備金の積立負担は一時的に基礎利益の減少をもたらすものの、保険期間を通じて全額取り崩され、予定利息の軽減により翌年度以降の利差益の増加に貢献

【ご参考】標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響(イメージ図)



[基礎利益(富国生命単体)]

- 保険関係損益(除く標準責任準備金積立負担)
- 標準責任準備金積立負担
- 利差益



2024年度上半期報告のポイント

1 新契約年換算保険料は4年連続増加、新契約高は3年ぶりに反転増加

- 新契約年換算保険料は、富国生命、フコクしんらい生命とも増加、前年同期比12.6%増と4年連続で増加
- 新契約高も、2社ともに増加。前年同期比9.8%増と3年ぶりに反転増加
- 2024年4月に予定利率を引き上げた個人年金や、フコクしんらい生命の一時払終身保険が販売好調なことに加えて、個人年金から主力商品「未来のとびら」へのクロスセルによる主力商品の新契約増加が要因

2 4年連続増収、基礎利益は過去最高

保険料等収入は前年同期比0.6%増加

- 富国生命、フコクしんらい生命合算の保険料等収入は、前年同期比0.6%増と4年連続増収

基礎利益は過去最高

- 富国生命、フコクしんらい生命合算の基礎利益は、前年同期比16.3%増と2年連続増益となり、過去最高
- 外貨建公社債利息や内外株式配当金の増加などにより、基礎利益上の運用収支は高水準を維持し、利差益が増加

3 引き続き高い健全性を維持

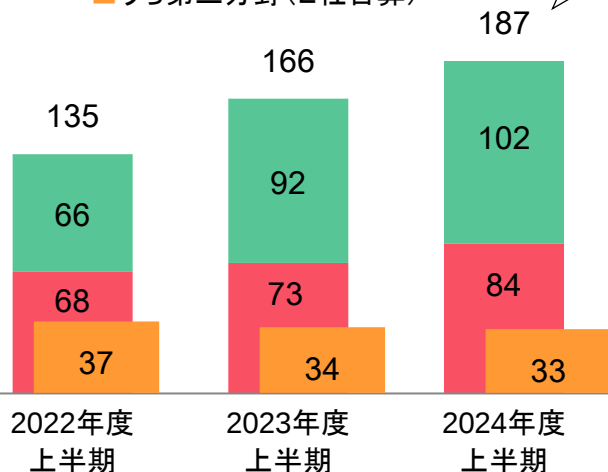
- 連結ソルベンシー・マージン比率は1,154.1%と前年度末比35.6ポイント低下したものの、引き続き高い水準を維持

保険業績(新契約・解約失効)の状況

新契約年換算保険料

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(2社合算)

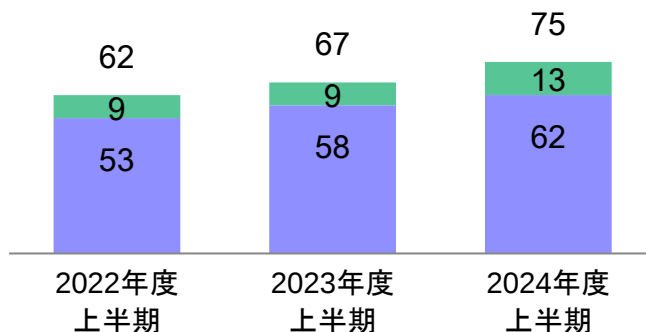
前年同期比
12.6%
増加



解約失効年換算保険料

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命

※個人保険と個人年金保険の合計

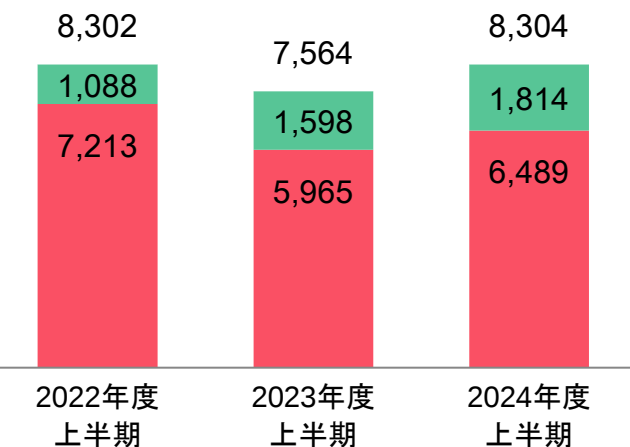


- 新契約年換算保険料は、2社とも増加
前年同期比12.6%増と、4年連続で増加
- 個人年金およびフコクしんらい生命の
一時払終身保険の販売好調が主な
要因
- 個人年金の販売増は、国内金利の
上昇を捉えた予定利率の引上げ
(保険料の引下げ)が奏功
- 解約失効年換算保険料は、他の金融
商品との競合による解約が増加した
ものの足元では落ち着きつつある

新契約高

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命

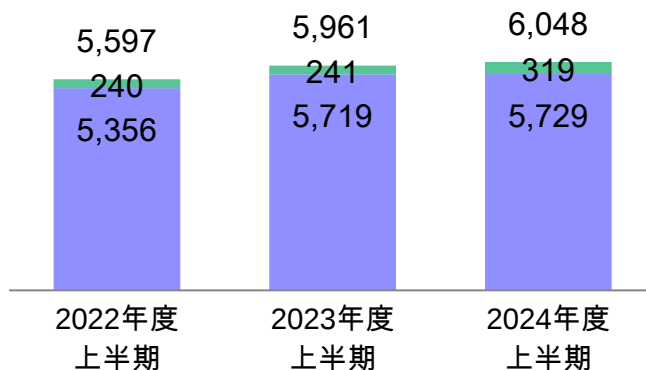
前年同期比
9.8%
増加



解約失効高

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命

※個人保険と個人年金保険の合計

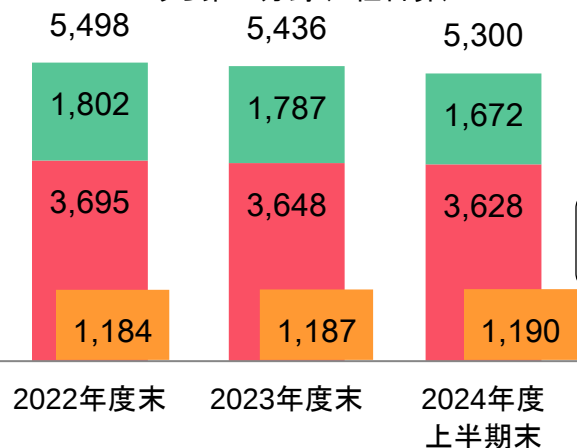


- 新契約高は、前年同期比9.8%増と
3年ぶりに反転増加
- フコクしんらい生命が安定的に伸展。
富国生命では、個人年金の販売好調
に加え、個人年金から「未来のとびら」
へのクロスセルによる新契約が増加

保険業績(保有契約)・保険料等収入、金融機関窓販の状況

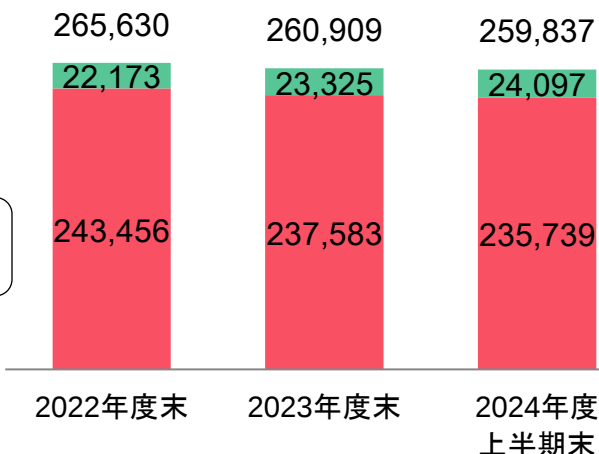
保有契約年換算保険料

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(2社合算)



保有契約高

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命

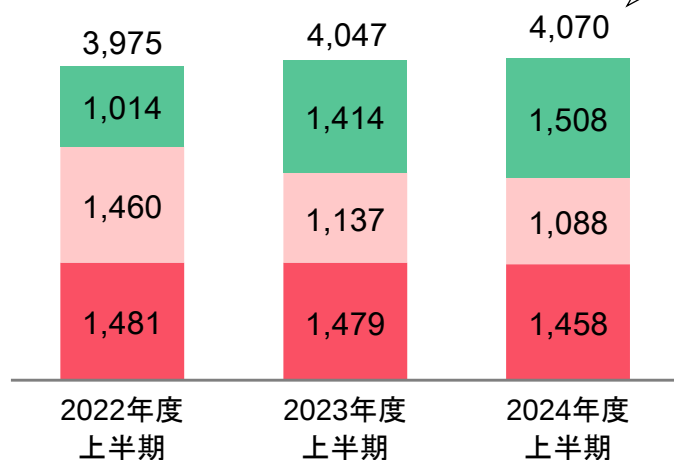


※個人保険と個人年金保険の合計

- 保有契約年換算保険料は、フコクしんらい生命で個人年金の支払満了契約が増加したことで、やや減少
- 第三分野の保有契約年換算保険料は、前年度末比0.2%増加、2003年度の開示以来プラス伸展を継続
- 保有契約高は、フコクしんらい生命で同3.3%増加

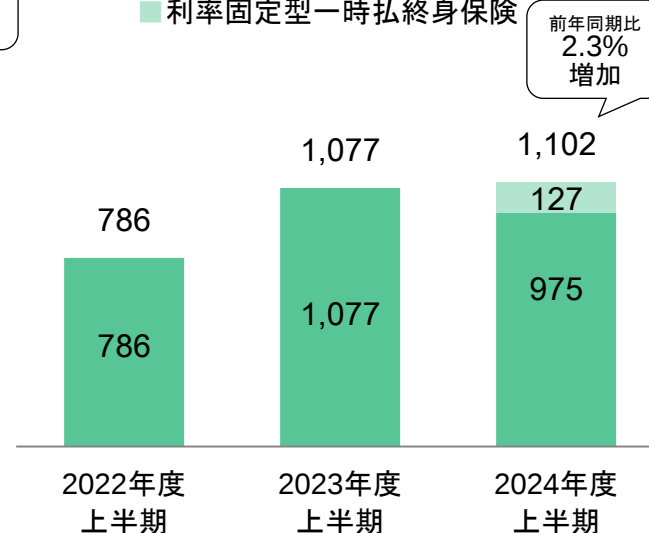
保険料等収入

(億円) ■個人保険分野 ■団体保険分野
■フコクしんらい生命



金融機関による貯蓄性商品の販売実績(フコクしんらい生命)

(億円) ■利率更改型一時払終身保険
■利率固定型一時払終身保険



- 保険料等収入は、フコクしんらい生命の一時払商品の好調により、前年同期比0.6%増と4年連続で増加

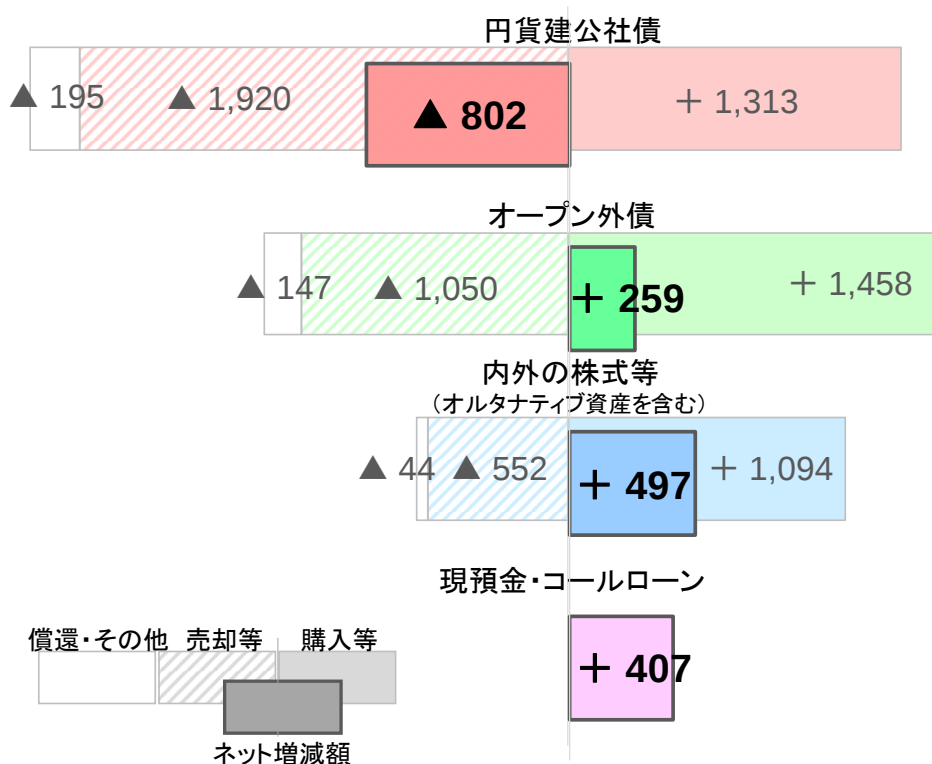
- フコクしんらい生命での信用金庫を中心とした金融機関による貯蓄性商品の販売実績は、前年同期比2.3%増と4年連続で増加
- 2024年4月より、幅広いニーズに応えるため、80~90歳の方が加入可能な利率固定型一時払終身保険を、金融機関窓販で販売開始

資産運用の状況(1)資産配分等(富国生命単体)

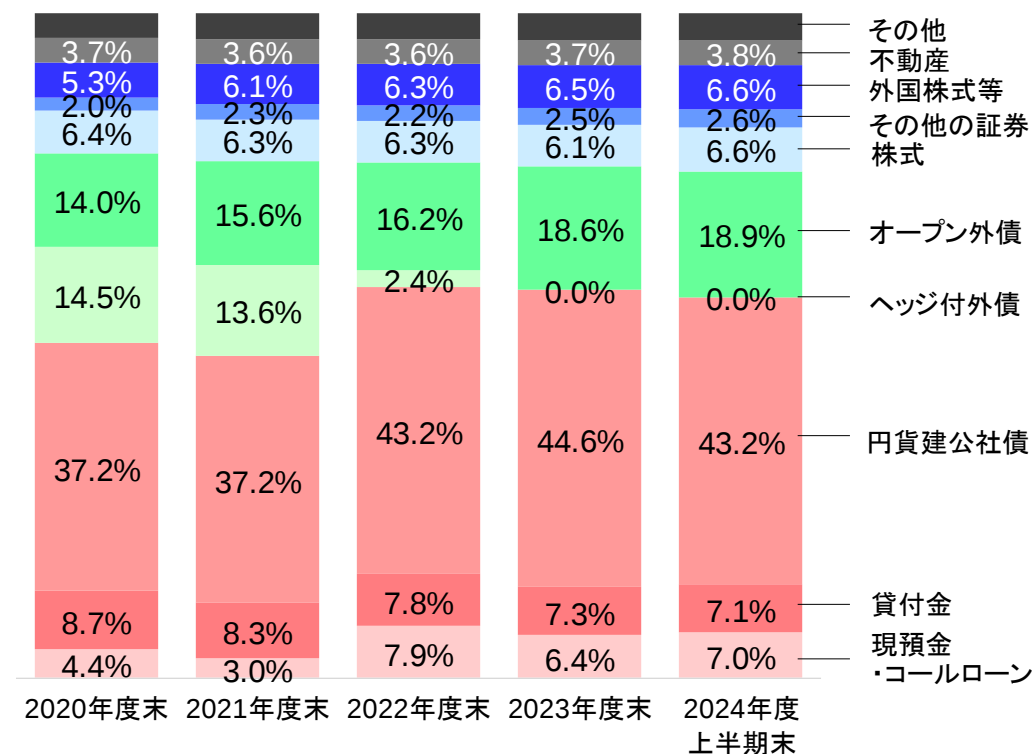
- これまでの超低金利環境の下では、逆ザヤの固定化となるデュレーション・マッチング型のALMは行わず、超長期国債への投資を、極力控えてきた。これにより、国内の金利水準が高まるなかでも含み損は相対的に少なく、また、十分な超長期国債の買入れ余地がある。今上半期は、円貨建公社債ポートフォリオにおいて、国内の金利動向を睨みながら、利回りの低い銘柄を売却し超長期 国債を買い入れる、収益性を高める銘柄入替えを実施
- また、オープン外債について償還が近い銘柄を売却しつつ利回りが高く残存期間が長い銘柄を中心に積み増すとともに、物価上昇が定着するなかで収益性の向上と実質価値の維持が見込めるエクイティ資産を積増し

主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

(前年度末比、億円)



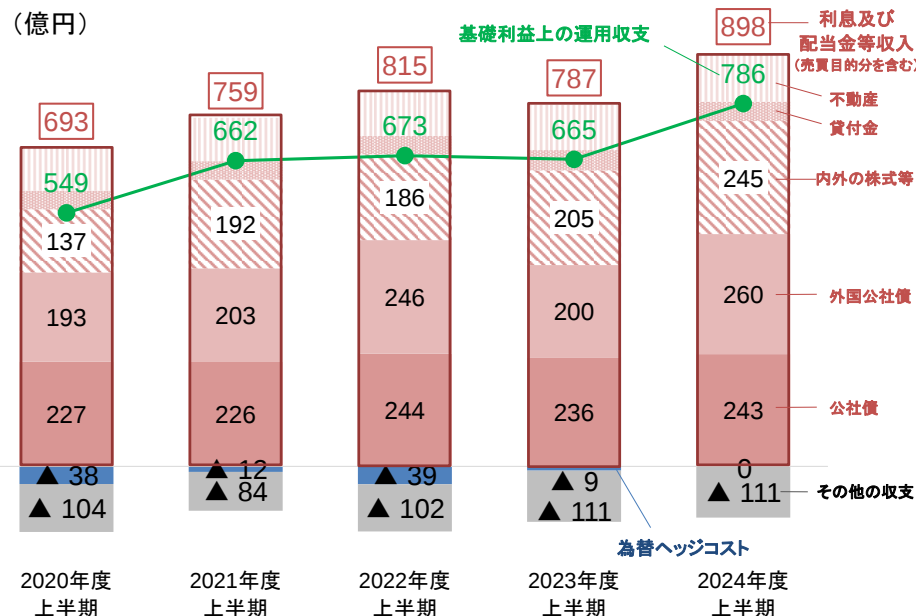
一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



資産運用の状況(2)

基礎利益上の運用収支、有価証券・不動産の含み損益の状況(富国生命単体)

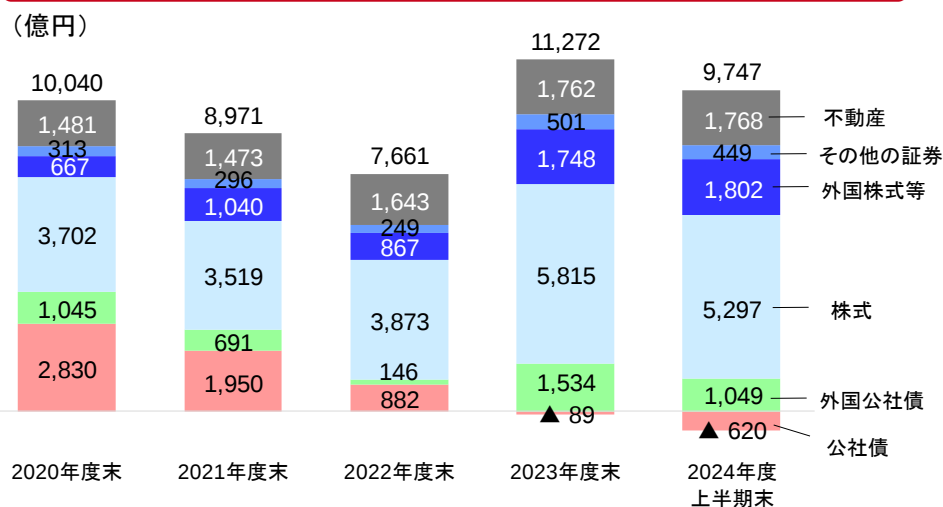
基礎利益上の運用収支の状況



※2021年度以前は、2022年度以降と同一の基準で算出

- 利息及び配当金等収入は、前年同期比14.2%増加。主な要因は以下の通り
 - ✓ オープン外債の積増しや、内外公社債の収益性向上のための銘柄入替えによる利息の増加
 - ✓ 内外の株式及び株式ファンドの増配や分配金の増加
- 為替ヘッジコストは、ヘッジ付外債の残高ゼロを維持したため、発生せず
- この結果、基礎利益上の運用収支は同18.2%増加の786億円と、上半期としては過去最高となった

有価証券・不動産の含み損益(富国生命単体)



- 有価証券・不動産の含み益は、前年度末比13.5%減少の9,747億円
 - ✓ 公社債の含み損は、国内の金利上昇により増加したものの、超低金利環境下での国債への投資を控えてきたことから限定的※
 - ✓ 外国公社債の含み益は、前年度末から為替が円高水準となったことから減少

※帳簿価額残高2兆8,832億円に対し、含み損は620億円にとどまる

基礎利益、自己資本の状況

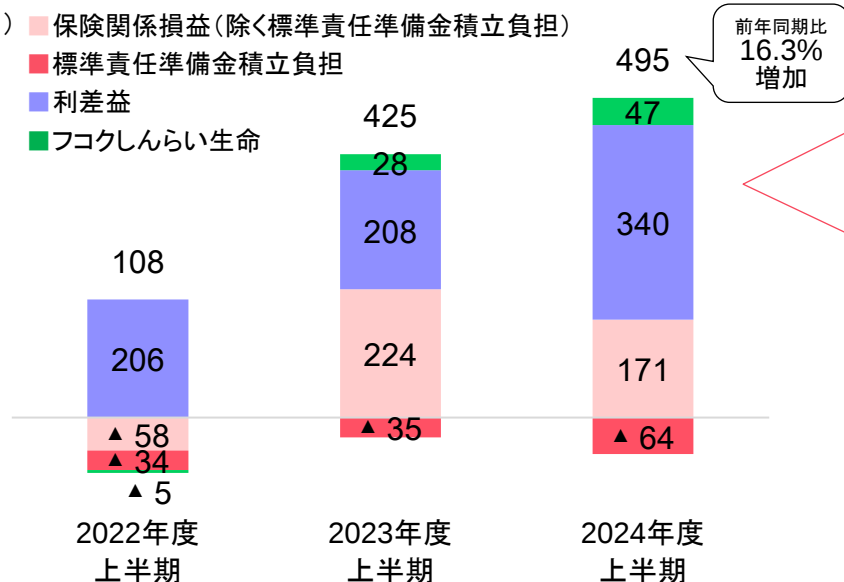
基礎利益

(億円) ■ 保険関係損益(除く標準責任準備金積立負担)

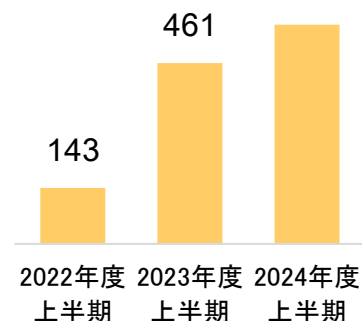
■ 標準責任準備金積立負担

■ 利差益

■ フコクしんらい生命



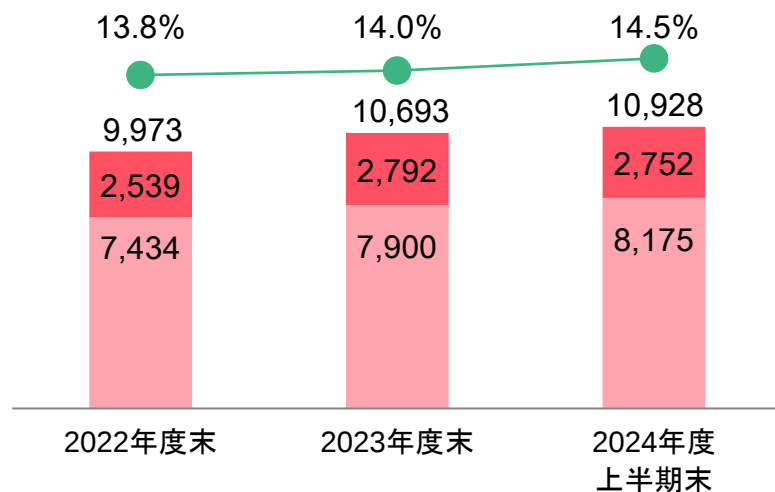
富国生命の標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益(億円)



- 基礎利益は、前年同期比16.3%増の495億円と2年連続増加し、過去最高
- 富国生命の基礎利益は、外貨建公社債利息や内外株式配当金の増加などによる利差益の増加が、全体を押し上げ
- フコクしんらい生命の基礎利益は、一時払終身保険の販売好調により、保険関係損益が大幅に改善したことなどで、前年同期比1.7倍
- 富国生命の標準責任準備金積立負担を除いた合算の基礎利益は、前年同期比21.2%増の559億円

オンバランスの自己資本の内訳 および自己資本比率(富国生命単体)

(億円) ■ 内部留保 ■ 外部調達 ■ 自己資本比率

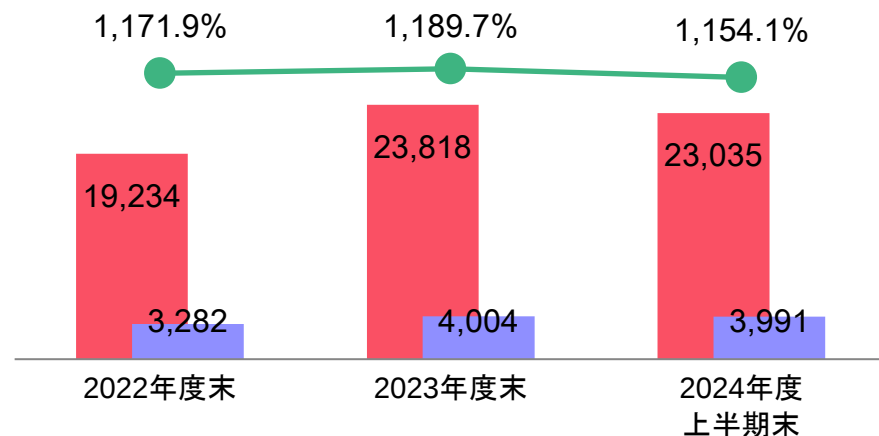


- 有価証券や土地の含み益に頼らないオンバランスの自己資本を重視し、市場動向に左右されない健全性を追求
- 自己資本の強化にあたっては、内部留保の積上げを第一義とし、適時外部調達を実施
- 自己資本比率は、14.5%と高水準

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率

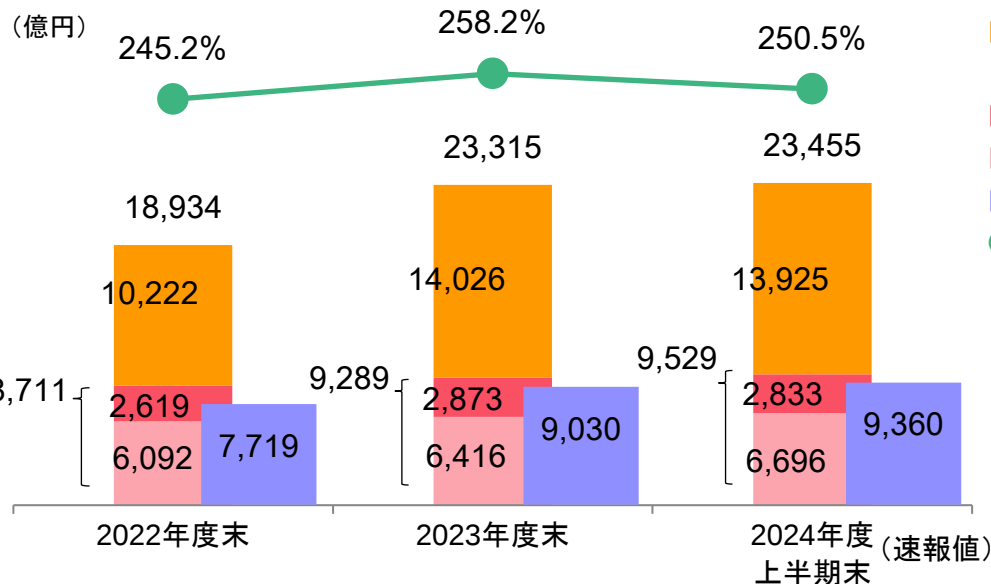
(億円) ■ ソルベンシー・マージン総額 ■ リスクの合計額 ● ソルベンシー・マージン比率



■ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比 35.6 ポイント低下の 1,154.1%

■ 国内金利の上昇や円高の進行に伴う有価証券含み益の減少などにより低下したものの、引き続き高い水準を維持

【ご参考】連結経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)



■ 将来利益現価、有価証券含み損益等
■ 外部調達
■ 内部留保(税引後)
■ リスクの合計額
● ESR

■ 連結ESRは、前年度末比 7.7 ポイント低下の 250.5%

■ オンバランスの自己資本(内部留保＋外部調達)は、リスクの合計額を上回り引き続き高い水準を維持

・ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている
・2024年度上半期末(速報値)は、保険負債やリスクの一部について簡便法を用いて計算している

【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

(億円)

	2022年度上半期	2023年度上半期		2024年度上半期	
			増減率/pt		増減率/pt
新契約年換算保険料 ^(※)	135	166	22.9%	187	12.6%
富国生命	68	73	7.3%	84	14.3%
フコクしんらい生命	66	92	39.1%	102	11.3%
新契約高 ^(※)	8,302	7,564	▲ 8.9%	8,304	9.8%
富国生命	7,213	5,965	▲ 17.3%	6,489	8.8%
フコクしんらい生命	1,088	1,598	46.8%	1,814	13.5%
保険料等収入	3,975	4,047	1.8%	4,070	0.6%
富国生命	2,960	2,633	▲ 11.1%	2,561	▲ 2.7%
フコクしんらい生命	1,014	1,414	39.4%	1,508	6.6%
基礎利益	108	425	293.5%	495	16.3%
富国生命	113	397	250.3%	447	12.6%
保険関係損益	▲ 93	188	—	107	▲ 43.1%
利差	206	208	0.9%	340	62.9%
フコクしんらい生命	▲ 5	28	—	47	67.8%

	2022年度末	2023年度末		2024年度上半期末	
			増減率/pt		増減率/pt
保有契約年換算保険料 ^(※)	5,498	5,436	▲ 1.1%	5,300	▲ 2.5%
富国生命	3,695	3,648	▲ 1.3%	3,628	▲ 0.5%
フコクしんらい生命	1,802	1,787	▲ 0.8%	1,672	▲ 6.4%
保有契約高 ^(※)	265,630	260,909	▲ 1.8%	259,837	▲ 0.4%
富国生命	243,456	237,583	▲ 2.4%	235,739	▲ 0.8%
フコクしんらい生命	22,173	23,325	5.2%	24,097	3.3%
連結ソルベンシー・マージン比率	1,171.9%	1,189.7%	+ 17.8pt	1,154.1%	▲ 35.6pt
富国生命	1,133.8%	1,147.0%	+ 13.2pt	1,112.3%	▲ 34.7pt
フコクしんらい生命	1,068.9%	997.0%	▲ 71.9pt	963.0%	▲ 34.0pt

※ 個人保険と個人年金保険の合計